



2011・1
15号

花名 ウメ

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

第3回 魅せる庭へ:リニューアル

(社)兵庫県造園建設業協会 ※大谷 芽衣子

庭をいつも美しく保つことは、非常に難しいものです。年月を経て大きくなり密集した植物、根が張って硬く締まった土壌などは、植物の生育環境を悪くし、作業がし難くなってきます。また、家族の年齢や構成が変わることで、要求する庭のデザインや機能も変化していきます。

高齢化で腰や膝を曲げて作業がしづらくなったことや、土壌改良など生育環境を改善したい、ガーデニングをする場所が無いのでスペースを確保したい、和風から洋風へデザインを見直したい等のリフォームをしたいと思う人が近年増えてきました。そこで庭をどうするか、どうしていくかを考え、必要な機能を付加しながら好みの庭を手に入れるようなリニューアルをしたいものです。

Case.1) 小規模なもの~花壇の改修など~

新しく植物を植えるためのスペースの確保や、多すぎる植物の間引きをする必要があるなどの花壇のリニューアルなら、女性や個人でもできます。問題は植わ



例：庭の実生モミジと苔、マメツタをダイヤモンドソウ等と寄せ植えした苔盆栽

っている植物や球根をどうするかですが、他の場所に移植したり、処分したり、近所の友達に差し上げる以外に、素敵な寄せ植えを作り、インターネットで販売したり、オープンガーデンの時にプレゼントしても楽しいですよ。

Case.2) 中規模なもの~模様替え、植え位置の変更など~

昨今流行のDIY (Do It Yourselfの略、自身で作ろうという意味) を実践します。古くなった鉢や柵の塗り替えなど、工夫すればかなり印象が変わります。器用な方は柵を作って植木鉢を綺麗に並べたり、歩きや

すいよう園路の舗装をしたり、機能的な改善をすることもできます。



例：庭の苔で作った苔盆栽を飾る自作棚

Case.3) 大規模なもの~レイズドベッドや花壇の工事など~

腰や膝を曲げて作業しづらい場合は、立ったり座ったりしたまま植え替えが出来る作業台や花壇 (レイズドベッド) を作ります。体重をかけるので、安全を考慮して造園会社などの専門業者に設計・施工を頼みましょう。気に入ったデザインと一緒に、植物の生育に良い環境を手に入れるためには、植栽基盤の改良もできる緑化工事に強い業者を探してください。



例：土壌改良をして間をあけて植栽

このように、やりたいことや予算によってリニューアル方法を選ぶことが出来ます。また、何から始めたらいいかわからない場合は、近所の綺麗な庭の持ち主や専門業者に相談すると色々な知恵・知識を貸してくれます。状況や年齢に合わせて柔軟に庭をリニューアルして、快適なガーデンライフを過ごしたいものです。

※関西造園土木株勤務・兵庫県立淡路景観園芸学校第5期卒業

2010ひょうごまちなみガーデンショー in 明石 花と緑のまちづくりフォーラム報告

2010ひょうごまちなみガーデンショーin明石が9月25日～10月3日にかけて明石公園及びその周辺において開催されました。明石商工会議所で行われた花と緑のまちづくりフォーラムは、毎年ひょうごガーデンマイスター(以下マイスター)の企画・運営で開催され、今回も県下各地から約260名のガーデナーさんが集まり、和気あいあいとした雰囲気になりました。

基調講演 「未来につなぐ花緑!」～田舎暮らしからの便り～

ホルティカルチャリスト (株)プランタス代表 月江 成人氏

○講師プロフィール

千葉大学園芸学部卒。英国等の植物園での研修を経て、現在は公園や個人庭園のデザイン、植栽コンサルタントとして、地域の景観と調和した、植物が主役の庭づくりを提案。3年前に緑豊かな兵庫県多可町に移住。

古民家再生と理想の庭をつくるべく日々奮闘中。パートナーであるガーデンデザイナーの潮夫人も当日パネルディスカッションに参加。



今日のガーデニングの姿

ガーデニングという言葉もすっかり定着し、昨今は単なる花づくりだけでなく、そうした活動を通じて「まちの景観」を考えるとという積極的な活動が聞かれるようになってきました。人々のネットワークが生まれ、趣味の領域という性格が強かった園芸が、地域の景観作り、地域のコミュニケーションの場へと発展していることは大変喜ばしいことと感じております。また知識や技術の向上に伴い、欧米の模倣ではなく、日本の環境に合った、いわば地に足の着いたガーデニングスタイルが徐々に広がってきているようにも感じます。

しかしまた一方では、道路緑化などに顕著に見られる、植物の生育特性を無視した管理や、誤った植物の選択、個人のお庭ではエクステリアばかりにお金とエネルギーを注いだ結果、住まいや暮らしと全くそぐわない庭が出来たりと、未だ現代の私たちの目指すべき景観作り、街並みづくりのスタイルが定まっていない面もあるように思われます。

美しい庭であるための3つのポイント

英国風でも伝統的な日本庭園でもなく、現代の私たちの生活に最も合った庭づくりを考える上で、今一度「美しい(美しく見える)庭」とは何かということを考えてみたいと思います。

第一に「バランスの取れた空間構成」があげられます。奥行き感や立体感のある空間作りは、特に狭い日本の庭では重要なファクターとなります。また花と緑のバランス、人工的な構造物と植物のバランスも十分に配慮されなければなりません。

次に「植物の魅力を生かす植栽デザイン」が求められます。とかく花の色ばかりに目が行きがちですが、植物の魅力は色だけでなく、香り、葉の形や大きさ、質感、そして草姿や樹皮など、じっくりと観察すると、その表情は大変に豊かであることに気づくはず。思いこみを捨てて、むしろ花のない季節も楽しめるような庭づくりをお勧めしたいと思います。



背景も美しい庭をつくる重要な要素の一つ。背景が緑であれば、花もより美しく見える。花のつき方、形、草姿、質感など、さまざまな要素を組み合わせることによって、より奥行きのある植栽空間ができていく。





そして最後に「植物が生き生きとしている」という最も基本的でありながら、見過ごされがちなポイントを改めて強調したいと思います。どんな珍しい高価な植物であっても、弱々しく貧相な姿でようやく生きているという状態では美しいとは言えません。また樹木も棒のように剪定されて、不恰好になってしまっは「無い方がまし」ということもあります。一つ一つの植物のもっともよい姿、伸びやかで生き生きとした状態を知り、そのように生育できる環境を整えることと同時に、私たちの暮らす地域の気象条件、環境条件に適した植物を選ぶ必要があります。

次世代へ伝えたい庭づくり

今日、ガーデニングも環境重視の時代にあり、「持続可能な庭づくり」への関心も高まっています。こうした流れの中、自生植物を取り入れた庭づくりが奨励される一方で、園芸植物が悪者のように扱われたり、自生植物という理由だけで選ばれた植物が生育に適さない環境に植えられたりと、偏った考えに振り回されているような場面も多く見られます。土地の景観や人の暮らしにあったスタイルで、環境に適した植物を選択し、地域の顔となるようないきいきとした緑あふれる庭が増えてくることが、これからの新しい日本の景観づくり、環境づくりにつながると思っています。

花と緑のまちづくりフォーラムの企画運営に参加して

ひょうごガーデンマイスター 安尾 昌子

花と緑のまちづくりフォーラム(以下、フォーラム)では、基調講演後にガーデンデザイナーの潮夫人にも加わって頂き、講師夫妻を中心にコーディネーターとパネラーによるガーデントークというスタイルをとりました。今回の試みは基調講演を掘り下げ、参加者の交流をもっと活発にしたいという、関わったマイスターの思いの中で実現しました。ガーデンショーのサブテーマ“未来につなぐ花と緑”を踏まえ、若者や子供たちに花緑への関心をどのようにしたら持ってもらえるのか、未来を見据えた内容にしたいというのが一致した意見でした。

そのような考えの下、多可町の山村に3年前に移り住み、現在小学1年生の男の子と3歳の女の子の親として、放置された杉林を家族で開墾し、理想の庭づくりに挑戦されている月江ご夫妻に講師の白羽の矢を立てました。

基調講演では、地域の景観と気候風土に調和した植物が主役の庭づくりをすることが成功の秘訣と、実践に基づく提言に参加者は納得、説得力がありました。その後のガーデントークでは、マイスターを代表して淡路地域の上田治子さん、但馬地域の井上裕美子さんがパネラーとして参加され、夫妻の日常生活、子育てを通じての花緑への考え方など、和やかな中にも意義深い意見交換や質問が交わされました。偶然にも壇上の方々が淡路景観園芸学校つながりの旧知であったこともあり、本音でトークでき、アットホームな雰囲気

を醸し出すことができた気がします。

この講演、ガーデントークを通じての提言は、植物、地域の気候風土をよく知ることが手間の掛からない失敗の少ない緑化になり、活動の継続につながるのではないか、いずれにしても続けるためにはちょっぴりの無理と気力が時には必要であるということです。自然や環境を大切に子どもたちを育てるには、まず大人、特に親の姿勢と心がけが重要であること、学校教育で緑を育むことが大切であること、田舎暮らしをしなくても気持ち一つで豊かな緑と付き合うことができるなど本当に多くのものを学び取ることができ、ほっこりした気持ちでフォーラムを終えることができたように思いました。



<アットホームな雰囲気でのガーデントーク>



2010ひょうごガーデンコンペ

☆☆☆ 受賞者の横顔 ☆☆☆



辻井 玲子さん (伊丹市)
寄せ植え部門 兵庫県知事賞

花木の好きな父や主人の影響もあって、20歳過ぎから花緑に関わるようになりました。

今回で3度目の出展です。過去2回は優秀賞でしたので、兵庫県知事賞の受賞を知らされた時も、えっ、優秀賞の間違いじゃない?とうれしい驚きでした。

今回の作品は、パンパスグラスの穂色を綺麗に保持するため、直射日光を遮るようビーチパラソルを利用しました。今年は秋花が出回るのが遅かったので、思うように花が集まらず、困りました。苗作りでは温度調節に苦慮しました。

私自身の出展は今回までで、今後は後進の指導にあたり、伊丹市から多くの出展作品が集まるよう頑張っていきたいです。



鳶田 博美さん (神戸市西区)
寄せ植え部門 兵庫県議会議長賞

幼い頃に一面に広がるサギソウの群生地を見て、群生の美しさに感動すると共に、一つ一つの花の美しさと構造に驚き、植物を採集し、観察するようになりました。

今回の作品は、学生時代に染色を学んだことを生かし、色と線の重なり、奥行きや光の透け具合など、染色の細かいニュアンスを生かせるよう工夫して制作しました。兵庫県議会議長賞を頂けて、酷暑を乗り切ってくれた草花に感謝!!です。

今後は、山野草や珍しい外来種等ではなく、自分の住む場所で見慣れた植物を使って、心穏やかになる美しく懐かしい風景を作りたいです。そして、植物をいつも身近に感じて暮らしていきたいです。



藤原 美和さん (神崎郡)
額縁型プランター部門 兵庫県知事賞

18年前に家を建てたのを機に庭づくりを始めました。子どもたちの遊び場となる庭に花や緑は欠かせないと思いました。子どもと一緒に植物を育てたことも今ではいい思い出になっています。

今回は、植え込む額縁型プランターに流木を使ったかったので、夫にイメージを伝え作ってもらいました。そのお陰で、色や形など独創的なものが出来たと思います。でも受賞を知らされた時は、すぐには信じられず、思わず自分の名前が確かめました。

(笑)

今後は、自分が楽しんで作っていくのはもちろんですが、周りの人たち皆にわくわくしてもらえるような花づくり、作品づくりが出来るといいですね。

兵庫県がお花、緑で覆われますように~!!



山田善一・誠子さん (三田市)
花壇写真部門 兵庫県知事賞

私たち夫婦のガーデン歴は42年になります。ともに、花を育てる親の後ろ姿を思い出して始めました。最初に育てた小菊やキンセンカの花を褒められたことがきっかけになっています。

今回の作品は、配色や高低差などを考えて、250鉢をバランス良く配置しました。さらに青い空や白い雲も取り込んだ13階ルーフバルコニー特有の「小さな空中ガーデン」を表現しました。受賞を知らされたときは、思わず、「ウソ!」とびっくりしました。

これからもマンションのルーフバルコニーならではのガーデニングを目指し、人に感動と喜びを与えられるよう、楽しみながら努力したいですね。

皆さんも是非ご夫婦で花づくりを楽しんで下さい。



県民まちなみ緑化事業の活用事例

花と緑のまちづくりセンター 嘱託 二宗 誠治

県民まちなみ緑化事業は、防災性の向上や環境改善等を図るため県民が実施する緑化活動に対して、県民緑税を財源として補助を行っています。このうち校園庭の芝生化で、補助目的以上の成果をあげている事例を紹介します。

平成22年10月、花と緑のまちづくりセンターでは、淡路市立津名中学校グラウンドにおける校園庭芝生化の申請に対して、県民局から依頼を受け「県民まちなみ緑化事業技術審査」を行いました。審査終了後、前年度事業で同様の手法で校園庭の芝生化を行った、隣接する津名高等学校を訪れ、昨年の生育状況を調査しました。兵庫県立津名高等学校グラウンドの周辺部1,547㎡をノシバで緑化したもので、生育状況は概ね良好でした。

ここで、グラウンドゴルフを行っている生徒たちを見かけました。担当教員の話では授業で活用しているとのこと、人気のメニューのようでした。

校園庭の芝生化では、「土ぼこりが立たない」、「けがをしにくい」、「夏の温度を下げ、涼しくしてくれる」、「見た目も美くなる」などの効果が認められていますが、環境改善、ヒートアイランド現象の緩和以外にも、積極的に授業だけでなくクラブ活動でも使われていて、陸上部などは裸足でダッシュを行ったり、クールダウンにも活用されているとのこと。



<グラウンドゴルフの授業風景>



<芝生が足りないので土のグラウンドでも>



<グラウンドゴルフの授業風景>



<緑化事業の看板>

グリーンメッセージ

花と緑のまちづくり活動と「緑の基本計画」について

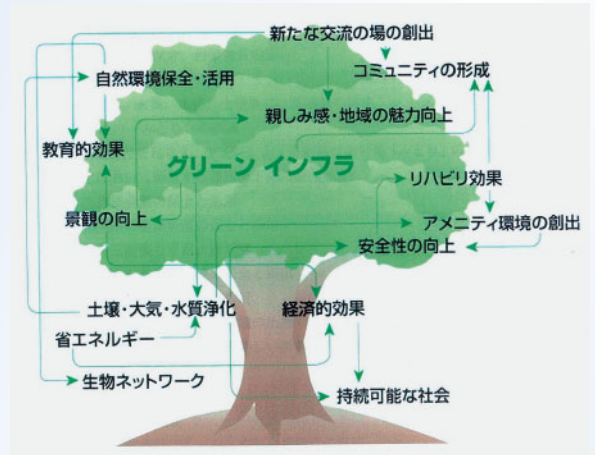
～皆さんのまちの緑の基本計画は、
どのような計画かご存じですか？～

(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼
花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎

都市における花や緑は、私たちの暮らしに欠かすことの出来ないかけがえのないものです。それは、私たちの心身を癒し、健康を増進させます。また公園や緑地は、多くの生きものの生息空間となり、身近に楽しめる多様なレクリエーションや自然とのふれあいの場を提供しています。そして我が国の美しい自然や地域の風土・風景・景観を形づくり、地域の賑わいや観光振興に寄与し、日本庭園、伝統園芸など地域固有の芸術文化にも重要な役割を果たしています。災害発生時の避難場所や防災拠点、延焼防止などの多様な防災機能も有しています。さらに、植物のもつ光合成によるCO₂の吸収や蒸発散作用によるヒートアイランド現象の緩和など都市型気象の改善にも大きく寄与しています。

このように大切な花や緑、公園や緑地の整備や保全、管理を総合的かつ計画的に推進するためには、それぞれの地域において、その固有の歴史や文化を踏まえ、地域の植生、地形、水系等実情に合わせ、しかも中長期的視点に立った計画を策定することが極めて重要です。さらに行政、地域住民、NPO法人、民間企業等多様な主体が、積極的に参画・努力して計画づくりを行い（プロセスの共有化）、その実現に向かって、それぞれの立場で行動していくことが重要で、いわばその良循環関係が確立している地域ほど素晴らしい成果が上がっていると言えるのではないのでしょうか。

「緑の基本計画」は、都市緑地法第4条に規定さ



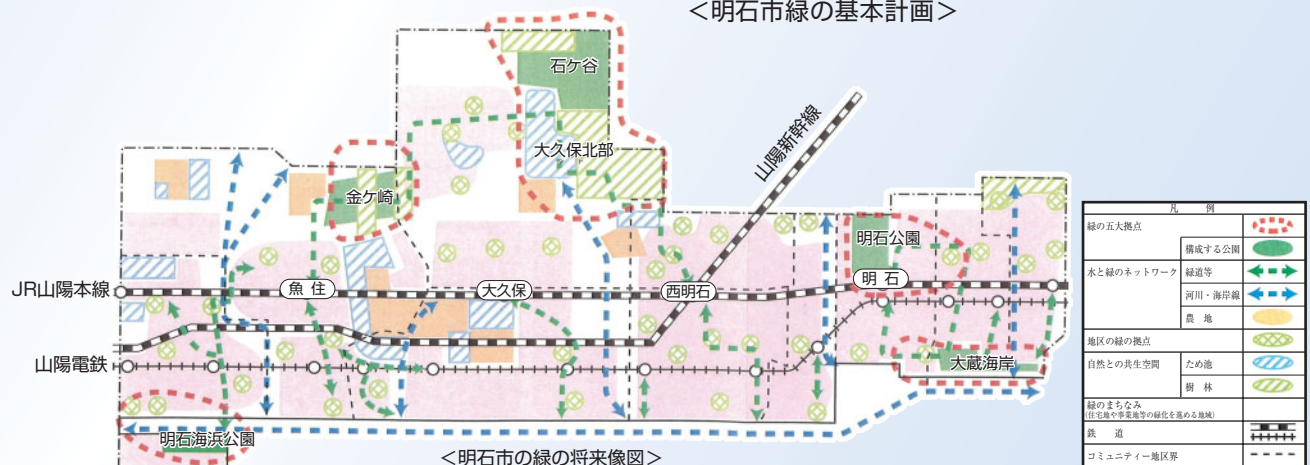
<緑は社会の貴重な基盤>

れる計画で、市町村が緑地の保全や計画の推進に関して、その将来像、目標、施策などを設定し、総合的・計画的に実施するために策定するものですが、その際、地域住民の意見を十分反映させることや計画そのものの公表が義務づけられています。既に、全国の多くの自治体が策定しており、計画の見直しに取り組んでいるところも多いと思います。（筆者も、現在、明石市緑の基本計画（改定）策定委員会に参画し取り組んでいます。）

この機会に、皆様の地域の「緑の基本計画」にはどのような将来像が描かれ、その実現のための方策はどのようなになっているのか、さらに皆様の活動とどのような関わりがあるのか、是非確認して欲しいと思います。その上で、皆さんも地元の自治体が策定している「緑の基本計画」に積極的に参画していただきたいと願うものです。地域の緑を支えるために！地域の緑を増やすために！地域の緑を輝かせるために！そして、皆さん自身が輝くために！！



<明石市緑の基本計画>



<明石市の緑の将来像図>

●●● 季節の園芸相談 ●●●

相談員 本白水 守・合田 薫

新年に縁起の良い植物を植えたい

Q 縁起の良い植物を植えたいのですが、どんな種類の植物が良いでしょうか。また、育て方の注意点がありますか。

A お正月には松竹梅の寄せ植えが店頭に並びますが、センリョウ等は正月の生け花の素材として販売されていますね。センリョウは豪華な気分に使っていただけますが、ヤブコウジ（下図）も縁起の良い植物です。ヤブコウジは別名十両と呼ばれるのですが、ジャンボ宝くじが当たるよりも、十両で幸せになれるような欲の少ない人にぴったりの植物ではないでしょうか。センリョウやヤブコウジは太陽の直射を嫌いますので、置き場所に注意してください。



(ヤブコウジ)

落葉果樹の休眠期防除

Q 庭植えの果樹は休眠期の病害虫防除が大切だと言われていますが、やっぱり休眠期防除は欠かせないものなのでしょうか。

A 冬になると葉を落とす果樹を落葉果樹といい、病害虫も落ち葉と一緒に落ちてしまいます。しかし、一部の病原菌や害虫は芽の中や、枝上で越冬します。病害虫は厳しい冬を乗り切るために様々な工夫をしているのです。カイガラムシは殻で虫体が覆われています。アブラムシ類は芽に産み付けられた卵で越冬します。そのため、休眠期の防除が必要なのです。休眠期は葉を落としているので、葉に葉害が出るような薬剤も使用できます。休眠期防除の一例として、機械油乳剤は落葉果樹のアブラムシ類を対象に農薬登録がありますが、使用時には注意する点があります。それは芽が動き出す前（萌芽前）に散布しなければならないということです。特に梅は1～2月頃から萌芽してきますので、12月中に防除する方が無難でしょう。

ブルネラの育て方

Q ブルネラのふやし方を教えてください。

A ブルネラはシソ科ウツボグサ属の植物で 別名、セイヨウウツボグサと呼ばれる、日なたを好む耐寒性宿根草です。

草丈は10cmほどの小ぶりな宿根草ですが、初夏から夏に多くの花を咲かせます。丈夫なので、法面(のりめん)や花壇を覆うように育ち、グランドカバープランツとしての役目も果たします。

<ふやし方>

ブルネラは、さし木でふやせます。初夏か、初秋から秋にかけて、茎を2節ごとに切り揃え、切り口を30分ほど水につけてから、さし木用土にさします。

タネまきでもふやすことは可能です。植替えは3年に1回程度、秋にします。

<冬越し>

寒さにも強く、夏の強い日ざしでも比較的元気に生育します。



(ブルネラ)

(財)兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

** 園芸相談コーナー **

草花・花木など

花と緑の育て方などのご相談をお受けします。
写真や実物をご持参いただきますと、
お話ししやすくなります。

Tel 078 (918) 2405
10:00～16:00

Fax 078 (919) 5186

Eメールアドレス: info_midori@hyogopark.com

★★お気軽にどうぞ★★

県下の公園紹介

第6回 ☆☆☆ 舞子公園

JR舞子駅前から海岸沿いに東へ広がる舞子公園は、明治33年(1900年)、県立都市公園として開園しました。白砂青松で名高い舞子浜も、世界一の吊り橋である明石海峡大橋のゲートとなってからは、橋と海峡を眺望するベストスポットとして、国内外から多くの観光客が訪れるようになりました。

中でも舞子海上プロムナードは、海面からの高さ47m、陸地から約150m、明石海峡へ突出した延長約317mの回遊式遊歩道で、行き交う船を橋上から眺められるガラス張りの床面や、その上に横たわる「丸木橋」は迫力満点です。JR線を挟んで広がる芝生広場や健康増進のための遊具も整備されて、市民の憩いの場にもなっています。

また、歴史的文化財として明治から昭和にかけての貴重な建築物も散在し、趣き深い散策コースとなっています。



舞子海上プロムナード



旧武藤山治邸

鐘紡社長、衆議院議員として活躍した武藤山治が明治40年に舞子海岸に建てた木造2階建てのコロニアル様式の西洋館。平成22年11月より公開。



旧木下家住宅

昭和18年に建てられた数寄屋造近代和風住宅。創建時の屋敷構えをほぼ完全に残す貴重な建物として平成13年に国の登録有形文化財に登録される。



舞子公園管理事務所 TEL. 078-785-5090 FAX. 078-785-5109

わが公園のこの一本

北播磨余暇村公園の「ヒトツバタゴ」

ヒトツバタゴ(一つ葉田子)は北播磨余暇村公園の珍しい樹木の一つで、園内の冒険広場の時計台の横に雌株が1本、回廊式コンビネーション遊具スタートデッキ前に雄株が3本の計4本植えられています。5月頃の花の盛り時期は、木がまるで白い雪に覆われたような美しい姿をみせてくれ、非常に見事で、また芳香もあります。

ヒトツバタゴは、限られた地域～木曾川流域(愛知・岐阜)と対馬～に自生するモクセイ科の高さ15～20m、雌雄異株の落葉高木で、分布が飛び地のように隔離している変わった樹木です。余り見かけないので、「ナンジャモンジャノキ」とも呼ばれることもあります。当園のイベントの一つである自然観察会では、珍しい動植物の生息場所や鉱石の露頭などを案内していますが、参加者はこの木の説明についても、興味深く耳を傾けています。10月に直径1cm程度の楕円形の果実をつけ、黒く熟します。公園などに植栽され、花を觀賞したり、中国では葉を茶の代用にします。



<回廊式コンビネーション遊具そばの雄株> <ヒトツバタゴ>

花と緑のまちづくりセンターだより 15号

- 平成23年1月1日(年4回発行)
- 編集発行 財団法人 兵庫県園芸・公園協会理事兼
花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL: 078(918)2405 FAX: 078(919)5186
Eメール: info_midori@hyogopark.com

～ 編集後記 ～

2010ガーデンコンペ・ひょうごの出展作品は、花だけでなく、葉の形や草姿が上手く生かされ、独自の奥行き感や立体感のある空間が出来上がっていました。フォーラムでお聞きした月江さんの美しい庭づくりのポイントは、一鉢の寄せ植えなどにも通じることを実感しました。